

シンガポール国際水週間 2012 ～ 日本の地方自治体も水事業の意気込みをPR ～

シンガポール事務所

独立以来、最大の課題であった水資源確保の問題を、再生水や海水淡水化開発技術開発により、克服しつつあるシンガポールで、今年で第5回目を迎えるシンガポール国際水週間 (Singapore International Water Week 2012: 以下、SIWW) が開催されました。

今回は初めて、第3回世界都市会議と初開催となるクリーン環境サミットと同時開催となり、シンガポールが得意とする戦略的都市づくりの統合政策を、各国から政府、産業、NGO 等が集い、さまざまな立場から、アイデアを交換し、新たなビジネス機会の創造を促進するため、熱気に満ちた議論が行われました。

特に今年度は、「住みやすく持続可能な都市のための水ソリューション」を副題に掲げ、都市づくりにおいて欠かせない水問題について、特に技術面から課題克服に向け、多くの専門家により意見交換が行われました。

期間中、水処理技術・漏水対策・水の再利用化技術・水質モニタリング等の技術的会議や、日本をはじめ、米・欧・中など9つの国の地域が主催するビジネスフォーラムが行われました。展示会場には、水処理の最新技術の展示等についてシンガポールを中心に、アメリカ、ヨーロッパや日本・韓国・中国などから約650企業と16団体が参加し、13.6億シンガポールドル(約8,432億円)規模の商談や研究開発に関する契約・覚書が成立しました。



ウォーター・コンベンションの
コーヒーブレイク中の様子

■シンガポール国際水週間概要

開催期間	2012年7月1日(日)～7月4日(水)
開催場所	マリーナベイサンズ エキスポ・会議場
テーマ	住みやすく持続可能な都市のための水ソリューション
主催	Singapore International Water Week Pte Ltd (環境・水資源省 (Ministry of the Environment Water Resource) 及び公益企業庁 (Public Utilities Board) により設立)
主な内容	ウォーター・コンベンション、水エキスポ、各国ビジネスフォーラム、サイトビジットほか

■シンガポール国際水週間の意義

SIWW は世界でも注目されている展示会であり、日本貿易振興機構（ジェトロ）が運営する「ジャパンパビリオン」は、過去最大の規模（641平方メートル）で、外国パビリオン最大となり、水事業における日本の存在感をアピールしていました。

SIWW は、シンガポール政府機関で水事業統括機関である公共事業庁（以下、PUB）や水処理会社のセムコープ（sembcorp）、ケッペル（Keppel）、ハイフラックス等との事業または、技術連携に関する多くのビジネス連携の機会を提供しています。開催期間中、明電舎は、PUB との間で、工業排水再利用設備としてセラミック平膜ろ過システム MBR（膜分離活性汚泥法）の実証プラントの建設・実証実験を共同で行うことで合意したと、発表しました。さらに、横浜市・明電舎・PUB の3者間で、下水処理で発生する分離液の効率的窒素処理に向けた共同研究を実施する覚書の締結も行われました。また、すでにシンガポールに水処理ろ過膜を納入している旭化成からは、同社のろ過膜を採用した韓国の大規模下水施設が本格稼働したことを発表しました。こうした国際的な連携により、シンガポールは、国内にこれまでなかった将来有望視される産業分野の集積を図っています。

SIWW は PUB を中心に、経済開発庁（EDB）、国際企業庁（IE）、規格生産性改革局（SPRING）が協力して組織した「環境・水産業開発協議会」が実施してきました。2003年に5億シンガポールドル（約310億円）だった水処理部門単独のGDP貢献額は、2015年に17億シンガポールドル（1,054億円）まで増加する見込みです。この部門の雇用者数は現在の2倍の1万1000人となると見込まれています。シンガポールは、SIWWを開催することで、水政策を促進させ、この地を世界のグローバル・ハイドロ・ハブとして地位を確固たるものにしてきたと強く感じました。

■日本の地方自治体の水事業拡大の可能性

ジャパンパビリオンには、民間企業19社とともに、自治体関連団体の、東京都水道局、横浜水ビジネス協議会、中部フォーラム、神戸市、福岡市が出展し日本の水事業のポテンシャルをアピールしていました。日本の成長戦略の一つ、水インフラ産業の市場拡大に向け、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）は、水事業の国際展開の促進を目指し、2010年にPUBと水分野技術での協力関係を構築することで合意しており、日系企業とPUBの技術提携を支援しています。



ジャパンパビリオン

一方、「水のいのちとものづくり中部フォーラム」は、低コストで、長年地域で培った技術を、発展途上国のコミュニティ水供給ビジネスとして立ち上げようとしています。この

取組は、中部地域の産学官連携により、異業種の地域企業が地域で培った緩速ろ過の上水技術や経験を活かし、世界的な水問題の解決と水ビジネス展開及び国際貢献につなげることを目的に発足しています。現在、スリランカでの事業展開を目指し、準備調査等行われています。

水事業については、新たな産業振興策として、多くの地方自治体で注目されています。海外市場への進出する方策として、シンガポールと連携する方法があります。その利点として、海外に進出する際のスムーズな利害関係の調整、事業立上げまでのスピード感等があります。また、シンガポールでは、企業進出時でのワンストップサービス、税制上の優遇や助成金さらに、日本の地方自治体が株主となって株式会社の設立が可能であり、世界の企業にさまざまな魅力を提供し、新たな可能性を提供しています。今回の SIWW では、中部フォーラムの取組みにもあるように、地域で培った技術を、今後需要拡大が見込まれている発展途上国のコミュニティ水供給ビジネスへ活かせる可能性があることも分かりました。

出展企業及び地方自治体関係者は、それぞれの強みを活かし、新たな市場開拓に向け、惜しみない努力を続けている現場に触れ、日本の技術力は世界的に、一步先をいくものであり、技術開発に関する熱い思いや誇りは、どこにも負けていないと感じました。

今後こうした機会を活用し、アジアの水市場へ事業展開する、日本の企業や地方自治体の動きに目が離せません。

(シンガポール国際水週間聴取等)

(則松所長補佐 北九州市派遣)

The logo for CLAIR features a stylized globe with a grid pattern, rendered in a light blue color. Below the globe, the word "CLAIR" is written in a bold, sans-serif font, also in light blue. The logo is centered on the page.

CLAIR